

巻 頭 言

島根県立益田高等学校
校 長 柿 本 章

本校は、東西 250km に及ぶ海岸線を持つ島根県の最西部に位置する益田市にあり、明治 45 年の創立以来 108 年間に渡って、石見地方西部の中心校として若者たちの学びの場として歴史を刻んできました。また地域とのつながりをより意識した先進的な科学教育による創造性豊かな人材の育成をめざして、これまで平成 16 年度から 14 年間スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業に取り組んできました。一昨年度から新たに第 4 期目（平成 29～33 年度）5 年間の研究指定をいただき、通算 16 年目に突入しました。

本校が位置する県西部は人口減少が進んでおり、さらに理系大学、研究機関、科学館等の施設が存在していないために科学的な刺激の乏しい地域です。その一方で豊かな自然、歴史・伝統、文化があり、さらに生徒を温かく支え育てようとする地域社会が今なお残っています。

こういったこの地域の良さも活かしながら、第 4 期事業では科学技術人材育成教育を包括するような方向で「地域創生に資するイノベーションを支える科学技術系人材の育成」を目指しています。

具体的には

①科学リテラシーを身につけた、これからの科学の発展に貢献する人材の育成

②データに基づく論理的・批判的思考力を身につけた、これからの地域創生に資する人材の育成を目標として取り組んでいるところです。全国的にも本校のような環境の学校が多く存在する中で、そのような地方公立高校のモデルとなるよう努力していきたいと考えています。

本校の特徴的な取組の一つに小・中学校と連携したプログラムがいくつかあります。「益田さいえんすたうん」「小学校への出前実験」「小学校理科読書を楽しむ会」などがその例ですが、今ではそれを経験した児童生徒が、益田高校の生徒としてプログラムの企画立案、準備、当日の発表にあたるなど人の循環ができるまでになりました。また、小学校からの継続研究の中には国内外での研究発表において優れた賞を受賞するという成果も生まれてきました。

こういった課題研究等による成果をさらに広げるべく、昨年度からは普通科生徒を対象とした探究学習を新たにスタートさせました。地域課題を題材にした課題解決型学習において、地域の課題を知り、その背景や解決につながる様々なデータの収集・分析を行い、データに基づく思考力、課題発見・解決能力を身につけることをねらいとしています。この取組をさらに進化させていきたいと考えています。

最後になりましたが、本校 SSH 事業の推進に多大なご支援をいただいております筑波大学、島根大学、広島大学、山口大学、南九州大学、シマネ益田電子株式会社、西日本鉱業株式会社、日本サイエンスサービスの運営指導委員の皆様方、益田市・益田市教育委員会をはじめとするすべての関係機関と地元企業の皆様、さらにはご支援・ご指導いただいております文部科学省、日本科学技術振興機構、島根県教育委員会の方々に心よりお礼申し上げます。本報告書をお読みいただいた皆様におかれましては、忌憚のないご意見・ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。